

連載

Turbo HAMLOGの 部屋

Turbo HAMLOG開発者

JG1MOU 浜田 博 Hiroshi Hamada

第14回

HAMLOGによるQSLカード印刷

Turbo HAMLOG/Win (以下, HAMLOGと略します) による QSL カード印刷について、
本誌 2025 年 7 月号の続きです。

QSLカードに写真を 印刷する

白紙の QSL カードに写真を印刷してみます。

図1の富士山の写真を印刷したいと思います。

図2は、本誌 2025 年 7 月号での印刷イメージです。この中に富士山を印刷してみたいと思います。図2を見ると余白が少ないので、文字と写真を重ねて表示されるようにしてみます。



JPEG 写真を読み込む

図3は、[命令(C)]メニューを開いた状態で、下から3番目に「JPEG イメージの印刷(J)」があります。

図4は、メニューの「JPEG イメージの印刷(J)」をクリックして表示されたウィンドウで、JPEG 写真を選択して読み込むことができます。

図5は、富士山の写真ファイルを読み込み、命令文が挿入された状況で、赤い線の位置がその命令文です。

表1は、JPEG 写真の印刷に用いる #Jpg 命令の概要です。#Jpg に続き、半角スペースを入れて5個のパラメーターをカンマで区切って指定します。

◀ 図1
QSLカード印刷やhQSLに使える富士山の写真

図2
本誌2025年7月号のときの印刷イメージ

白紙版QSL

ファイル(F) 前へ(B) 次へ(N) 試し印刷(Q) 番号指定(S) コール指定(A)

To Radio
JA0CCL J A 0 C C L

Confirming Our QSO

DATE			TIME	dB	BAND	MODE
Year	Month	Day	RJT UTC		kHz	Other
'25	May	31	14:18	-13	7	FT8

Rig: IC-7410 Output 50 W

Ant: 逆V-DP 15mH

Rmk: 今後ともよろしくお願ひします。
FBなQSO有難うございました!!

QSL#:44467 QSL THX
JCC#1332 GL:PM96XX

JG1MOU

Kuki-City Saitama
OP:Hiroshi-Hamada

by Turbo HAMLOG/Win Ver5.47

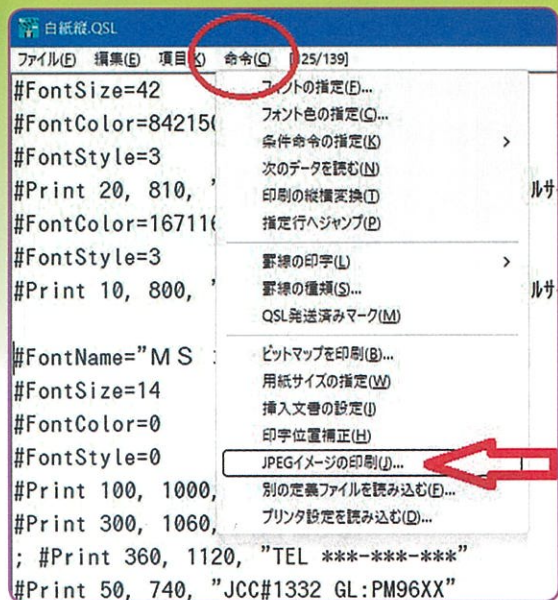


図3 「命令 (C)」メニューを開いた状況

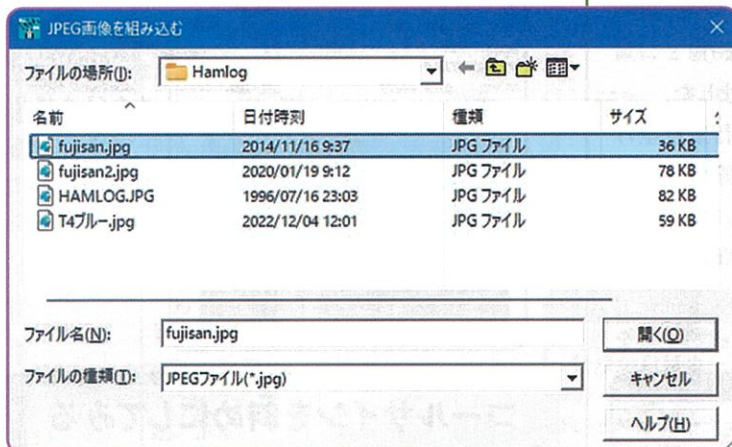


図4 JPEG ファイル (写真) を選択するウィンドウ

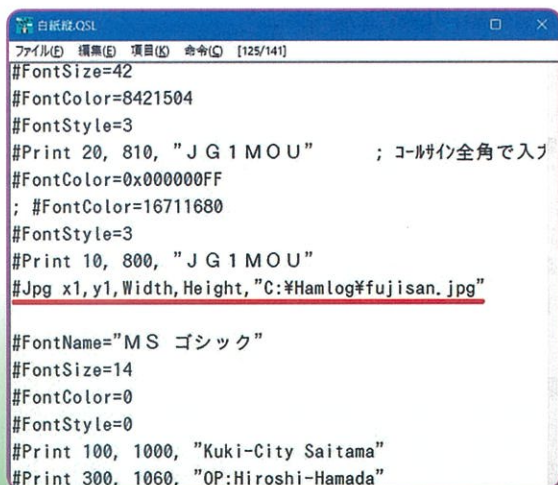


図5 富士山の写真ファイル印刷の命令文が挿入された状況

表1 #Jpg 命令の概要

#Jpg 横座標, 縦座標, 横幅, 高さ, "ファイル名"	
#Jpg	JPEG 写真を印刷する命令
横座標	用紙左端からの位置
縦座標	用紙上端からの位置
横幅	写真の横幅 (ゼロを指定すると高さに応じた適切な横幅)
高さ	写真の高さ (ゼロを指定すると横幅に応じた適切な高さ)
"ファイル名"	JPEG 写真のファイル名. ファイル名の前後を " " で括る

※位置や横幅などはすべて 0.1mm 単位です. 10 で1ミリとなります.
各パラメーターはカンマで区切ります.

写真の位置や横幅を設定する

図6は, 写真の位置や横幅などを指定したもので, 赤い線の位置の命令文が図5の内容を書き換えた結果です. 数値の書き換えは手作業となります.

図6の赤い線の位置の命令文では, 用紙の左から30ミリ, 上から106ミリの位置に, 写真を横幅66ミリで印刷する命令としました. 写真の高さはゼロとしましたので, 横幅に応じた適正な高さが印刷されます.

図7 (p.156) は, 図6の定義ファイルで Ctrl + Iキーを押してイメージを表示させた結果です.

図6の赤い線の位置に挿入された命令文は, QTHや名前の部分よりも上の行なので, 写真の上に (前面に) QTHや名前が表示されています.

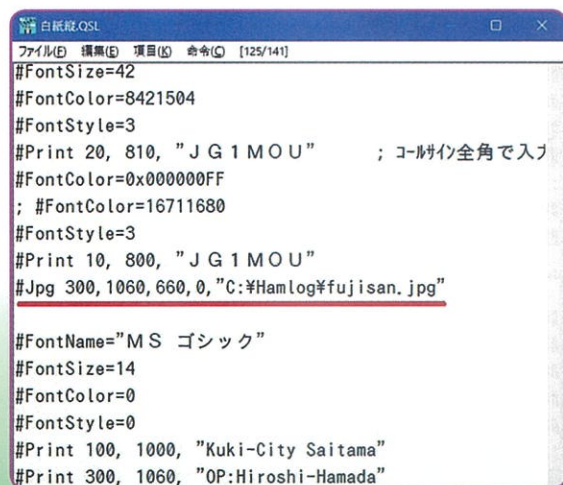


図6 写真の位置や横幅など, 0.1 ミリ単位で指定

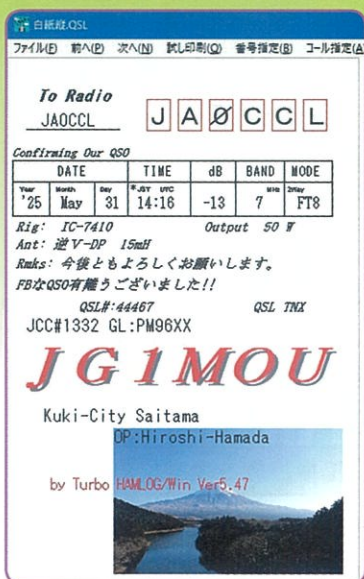


図7
富士山の写真を
印刷されたイメージ

写真をもう少し大きくしてみる

写真をもう少し大きく印刷してみましょう。

図8で、定義ファイルを少し修正してみました。

図8の赤い線の位置の #Jpg 命令は、行頭を空けてコメント扱い（無効な命令）とし、青い線の位置に #Jpg 命令を書き加えてみました。

青い線の位置に移動した理由は、写真の前面に自局コールサインを表示させたいからです。

図8の赤い線の位置の #Jpg 命令を使って写真を

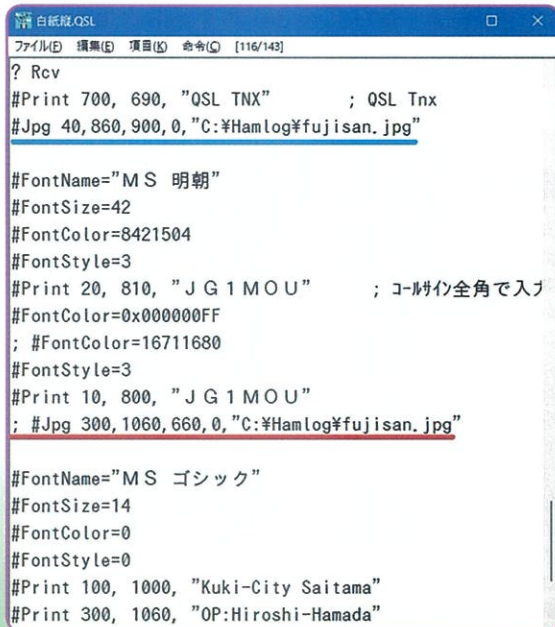


図8 赤い線で示す命令文を無効にし、青い線の位置に命令文を追加

大きくした場合には、自局コールサインが写真で覆われて見えなくなってしまうので、自局コールサインよりも上の行に #Jpg 命令を書きます。つまり、下の行に記述された命令文のほうが前面になるわけです。

図8の青い線の位置の #Jpg 命令では、用紙の左から4ミリ、上から86ミリの位置に、横幅90ミリで写真を印刷します。

図9は、Ctrl + Iキーを押してイメージを表示させた状況です。写真の上に筆者のコールサインが表示されています。

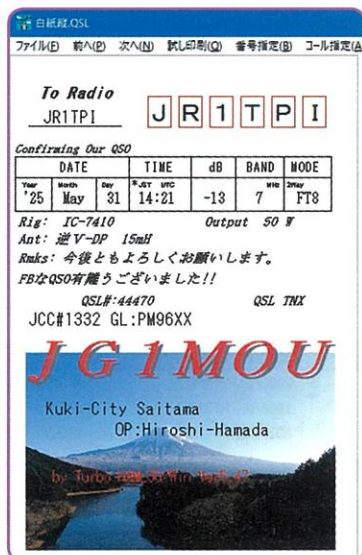


図9
富士山の写真を
大きくした状況

コールサインを斜めにしてみる

あまり意味はないのですが、図9の自局コールサインを斜めに印刷してみます。

斜め印刷では、#PrintL命令を使います。

#PrintL命令は、次のようにカンマで区切って記述します。

#PrintL 横座標, 縦座標, 角度, “印字文字列”

図10で、#Print命令を#PrintL命令に変えてみました。コールサインの印字位置を、図8よりも5ミリ下げて、10度の角度で斜めに印字します。

また、#FontStyle=3では太字斜体指定なので、図10では#FontStyle=1の太字指定としました。

図11は、Ctrl + Iキーを押してイメージを表示させた状況です。筆者のコールサインが斜めになりました。

#PrintL命令では、文字列を斜め、縦、逆さまな

ど角度を変えて印字できます。角度は0～360度が指定できます。

文字フォントは、“MSゴシック”や“MS明朝”などのように、フォントサイズの変更可能なTrueTypeフォントを使ってください。

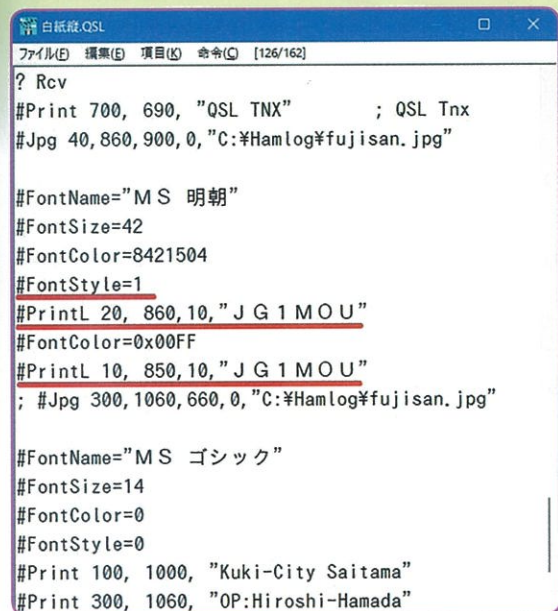
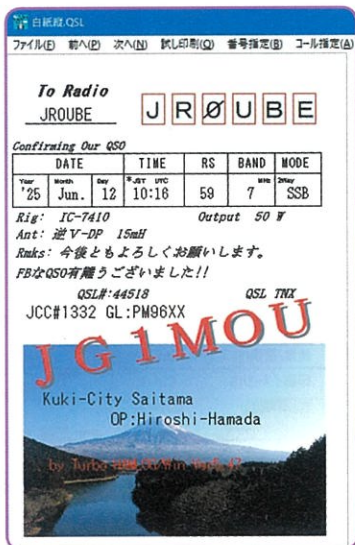


図10 #PrintL 命令に変更し、コールサインを10度の傾きとした状況

図11
コールサイン
を10度の傾
きとした印刷
イメージ



交信内容の文字フォントを 変えてみる

本誌2024年9月号の161ページで、数字のゼロに斜線が入るフォントをご紹介しました。このときは、入力ウィンドウやメインウィンドウなどの画面表示が

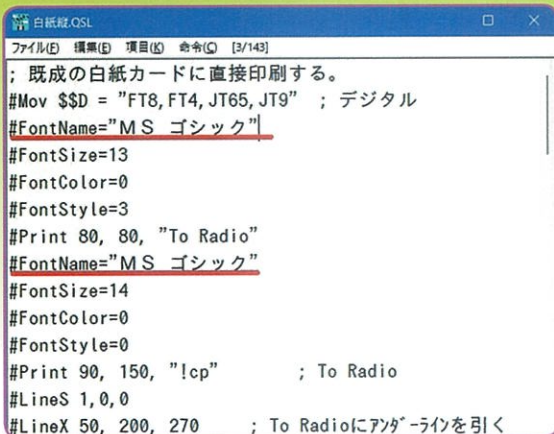


図12 修正前の状況。印字フォントに“MSゴシック”が指定されている

対象でした。

このときのフォントは、QSLカード印刷でも使えますので設定してみます。

図12は、定義ファイルの上のほうで、赤い線の位置に2箇所“MSゴシック”が指定されています。

#FontName = “MSゴシック”

これを、本誌2024年9月号でご紹介した“IPAゴシック”に変更してみます※1。

図13は、[命令 (C)]メニューを開いた状況で、メニューの1番目に[フォントの指定 (F)]があります。

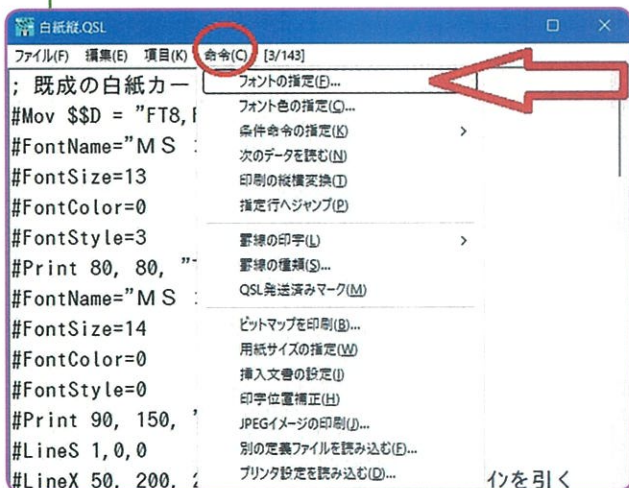


図13 [命令 (C)]メニューを開いた状況

※1 IPAゴシックは、文字情報技術促進協議会のホームページからダウンロードできます。

<https://moji.or.jp/ipafont/ipa00303/>

ホームページ左下のほうの「TTFファイル」の次の項目です。

・IPAゴシック (Ver.003.03)
ipag00303.zip(4.09 MB)

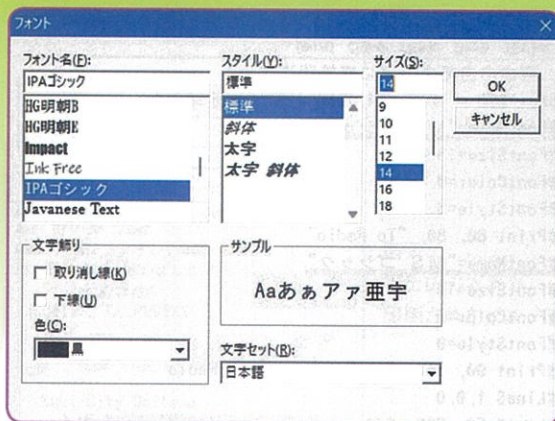


図14 フォント選択ウィンドウ

図14は、フォントを選択するウィンドウを開いた状況です。フォントはアルファベット順に並んでいます。

“IPAゴシック”を選択し、[OK] ボタンをクリックすると次のように挿入されます。

```
#FontName="IPAゴシック"
#FontSize=14
#FontColor=0x00000000
#FontStyle=0
```

フォント指定の概要は、表2のとおりです。

今回は #FontName="IPAゴシック" だけあれば用が足りますので、一緒に挿入された #FontSize, #FontColor, #FontStyle の命令文は無効にしておきます。

また、スクロールしていくと下の行には次のようなフォント指定がありますが、すべて無効にしておきます。

```
#FontName="Century Oldstyle Bold"
#FontName="MS ゴシック"
#FontName="MS 明朝"
```

表2 フォントを指定する命令の概要

#FontName	フォント名。前後を"で括る。
#FontSize	文字の大きさ。 正の整数で指定する。
#FontColor	文字の色を16進数または10進数で指定する。16進数の場合は0xを付ける。0～黒、0xFF～赤、0xFF00～緑、0xFF0000～青、0xFFFFFF～白
#FontStyle	文字のスタイル。0～標準、1～太字、2～斜体、3～太字斜体

※文字色はわかりにくいので、[命令(C)]メニューの[フォント色の指定(C)]から選択すると楽です。

文字列の検索と置き換え

図15は、[編集(E)]メニューを開いた状況で、この中に[検索/置換(S)]があります。

図16は、定義ファイル中の文字列の検索や置換をするウィンドウです。

ここで、FontNameという文字列で検索すれば探るのが簡単です。

#FontName="・省略・"

のような命令文を検索し、

；#FontName="・省略・"

のように行頭にセミコロンを入れて無効にします。

図17は、行頭にセミコロンを入れてこれらが無効にした状況です。単に行頭に空白を入れるだけでも無効となります。

これにより、すべての文字が“IPAゴシック”で印字されるようになります。

図18は、Ctrl+Iキーを押してイメージを表示させた状況です。“IPAゴシック”により、相手局のコールサインや交信時刻など、半角のゼロに斜線が入った文字となりました。

なお、#FontName, #FontSize, #FontColor, #FontStyle これらのいずれかを変え、その下のほうの行に同じ命令が表れるまで有効です。

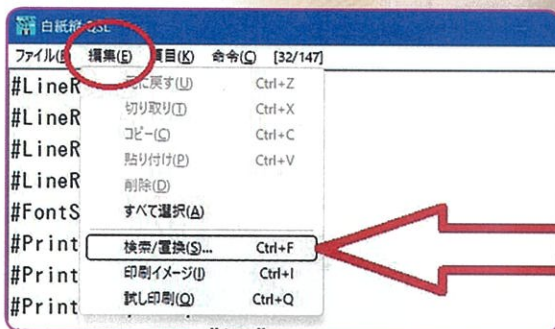


図15 [編集(E)]メニューを開いた状況

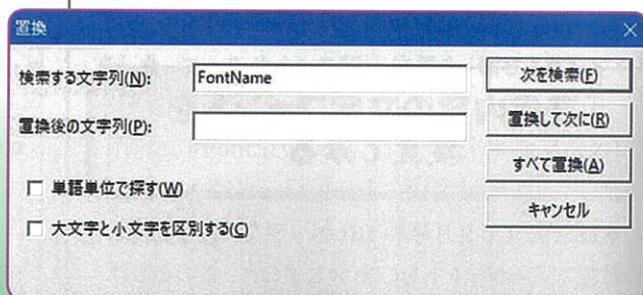


図16 定義ファイル中の文字列の検索や置き換えをするウィンドウ

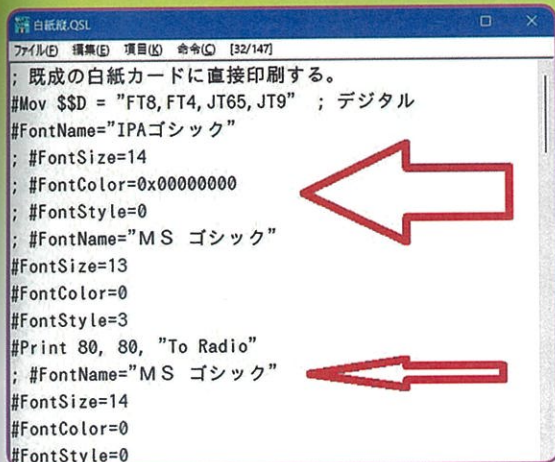
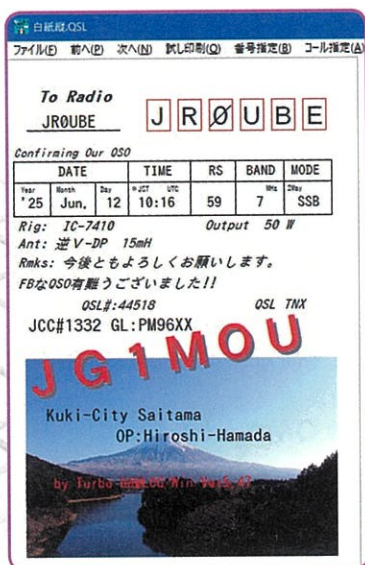


図17 行頭にセミコロンを入れて無効な命令とした

図18
“IPA ゴシック”に
より半角数字のゼロ
に斜線が入った状況



例えば、#FontSize命を指定すると、次に表れる#FontSize命令まで文字の大きさが保持されますので、修正したらその都度Ctrl+Iキーを押してイメージを表示させ、確認してください。

自局コールサインを 欧文フォントに変えてみる

コールサインをちょっと変わった欧文フォントに変えてみます。

図19は、書き換え後の定義ファイルです。

①の部分でフォントを“Ink Free”という欧文フォントを指定しました。また、文字のサイズは70、文字色は濃い灰色、文字スタイルは太字です。

②の部分では、コールサインを半角にしました。欧

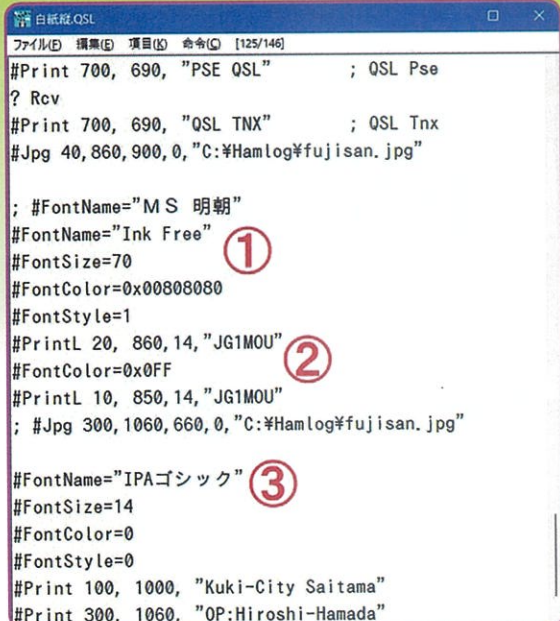


図19 コールサインに欧文フォントを指定した状況

文フォントなので、全角では文字化けするためです。また、文字の角度は14度に傾けました。0x0FFは赤ですので、灰色の字の上に赤い字を描きます。

③では、①の部分で指定した“Ink Free”を“IPAゴシック”に戻します。日本語フォントの“MSゴシック”などでもOKです。

これを忘れると、下の行に“Ink Free”という欧文フォントが適用されてしまいますので、漢字などがあると文字化けします。

図20は、Ctrl+Iキーを押してイメージを表示させた状況です。

自局コールサインなどは、いろいろフォントを変えてみたくなると思いますので、調整してみてください。

それでは、次号に続きます。

◎◎

図20
欧文フォントでコー
ルサインを表示

